

「連合2024平和ナガサキ集会」主催者代表挨拶

「連合2024平和ナガサキ集会」に、全国各地よりご参集の皆さん、大変お疲れさまです。本集会の開催にあたり、主催者を代表して挨拶を申し上げます。

「地獄だ、地獄だ。うめき声ひとつたてるものもなく、まったく死後の世界である。」これは、長崎医科大学で被爆した、永井隆博士が著書「長崎の鐘」で被爆直後の様子を表現した一文です。

1945年8月9日、11時02分、この長崎の地に原子爆弾が投下され、熱線と爆風と放射線によって、約7万4千人もの尊い命が奪われました。また、その3日前の8月6日、広島では、14万人余りの方々が犠牲になりました。

原爆で亡くなられたすべての方々に、改めて哀悼の意を捧げるとともに、今なお被爆の後遺症に苦しんでおられる方々に心からお見舞い申し上げます。

私たち連合は、結成以来、核兵器廃絶と世界の恒久平和の実現に向けて、取り組みを重ねるとともに、幅広い国民世論の形成をめざして、行政や関係諸団体の皆さまにも、行動への参加と協力を呼び掛けてきました。

原水禁とKAKKINの両団体には、日ごろからの連携に加え、本集会にも共催団体として、また、お手元のパンフレットにもありますように、長崎県をはじめ多くの皆さまにも後援団体としてご参加ご協力をいただいております。

連合の呼びかけにご賛同いただきました皆さまに、主催者を代表して心より感謝を申し上げます。

本集会には、公務ご多用の中、長崎県の大石賢吾知事、長崎市の鈴木史朗市長、長与町吉田慎一町長、時津町山上広信町長、長崎平和推進協会 調漸理事長にご臨席を賜っております。

また、国際労働組合総連合（ITUC）を代表して、リュック・トリアングル書記長にも、ご臨席をいただいております。誠にありがとうございます。

そして、大変お忙しいなか、日頃より連携を頂いております、泉 健太立憲民主党代表、玉木 雄一郎国民民主党代表にも本集会に駆けつけていただきました。ご公務のためご挨拶頂くことは叶いませんでしたが、この場を借りてご報告させていただきます。

さて、今年で戦後79年が経過する中、原爆の悲惨な体験・記憶を人々に伝える「語り部」活動の存続が難しくなっています。

連合は「語り部」の皆さんの思いを継承するために、本集会においても、後ほど、築城昭平（ついき しょうへい）様より、被爆体験をお話いただくことにしております。

また、明日実施する「ピース・ウォーク」では、連合長崎の青年委員会と女性委員会の皆さんがピースガイドを務めます。

「ピース・ウォーク」に参加いただく皆さんには、入念な準備を重ねてきた若者たちの熱意を感じていただくとともに、被爆の実相を学び、それぞれの職場や家庭で伝えていただければと思います。

核兵器は、人類史上最も破壊力のある非人道的な兵器であり、一旦使用されることになれば、その悲劇は計り知れません。

しかし、現在もなお、世界には 12,000 発以上の核弾頭が存在し、人類は核兵器の脅威にさらされ続けています。

そのような中、ウクライナへの軍事侵略を続けるロシアが核兵器の使用を示唆し、威嚇を続けていることや、北朝鮮による弾道ミサイルの発射、アメリカによる臨界前核実験の実施など、核兵器をめぐる国際環境は「過去数十年で最悪レベル」と言われています。

また、広島、長崎両市長も参加された、核兵器禁止条約の第 2 回締約国会議では、「核兵器のない世界」の実現をめざす政治宣言が採択されましたが、日本政府は第 1 回会議に続いて参加を見送りました。

日本政府には、唯一の戦争被爆国として、「核兵器のない世界」の実現に向け、核軍縮と核不拡散の強化に向けた外交努力を粘り強く続けるよう、引き続き求めています。

私たち連合は、核兵器廃絶、世界の恒久平和の実現に向けて、志を同じくする皆さまや、「平和首長会議」、ITUCとも連帯・連携し、国内外を通じて活動を一層強化してまいります。

結びに、本集会で、核兵器の廃絶、そして世界の恒久平和への想いを共有し、今後の運動につなげていくことをお互いに誓いあい、主催者を代表しての挨拶といたします。

ともに頑張りましょう。

以 上